**たんぽぽの家の組織**

**みんなが同じ生を受け、みんなに違う生き方がある。
障害のある人たちの生きる場づくりから、個を支えあう新しいコミュニティづくりへ。**

たんぽぽの家は、自分らしく生きたいという個人の願いを‘共感’という方法でとらえるところから生まれきた市民活動です。
「やさしさ」を活動の基調とし、たくさんの思考錯誤と多くの人たちのつながりを通して、文化と夢のある社会づくりに取り組んでいます。
たんぽぽの家の活動は、一般財団法人たんぽぽの家、社会福祉法人わたぼうしの会、奈良たんぽぽの会の３つの組織で構成されています。

[**一般財団法人たんぽぽの家**](http://tanpoponoye.org/foundation/)
[アート]と[ケア]の視点から、多彩なアートプロジェクトを実施している市民団体です。ソーシャル・インクルージョンをテーマに、アートの社会的意義や市民文化について問いかける事業を実施しています。国内外の団体とネットワーク型の文化運動を展開し、より公共性の高い仕事に取り組みます。

[**社会福祉法人わたぼうしの会**](http://tanpoponoye.org/wataboshi/)
障害のある人、子どもや高齢の人などが安心して地域のなかで生きていくことを支えるために[アート・ケア・ライフ]という視点を柱にした社会福祉サービスを提供しています。日中活動・就労支援と、相談支援・生活支援、福祉ホーム、配食サービスなどを運営しています。

[**奈良たんぽぽの会**](http://tanpoponoye.org/nara/)
たんぽぽの家の運動を支えるボランティア団体です。いのちや個性を大切に、だれもが生き生きと暮らせる社会の実現をめざしています。会員のみなさんからのお誕生日基金、チャリティバザーやコンサートの運営などでたんぽぽグループを支援します。どなたでも入会できます。

**たんぽぽ憲法**

1. その人が誇りをもって生きる。
2. その人の個性が生かせる。
3. その人のプライバシーが守られる。
4. その人が豊かな人間関係をもつことができる。
5. その人が知識の用い方、精神の導き方を学ぶことができる。
6. その人が挑戦し、あやまちをおかすことができる。
7. その人が未来について計画し、熱中することができる。
8. その人があるがままに、感じたままに生きていくことができ、それが認められる。
	1. 体の不自由な子どもたちが養護学校を卒業した後も、生きがいをもって生活できる地域に開かれた自立の家をつくろうと「奈良たんぽぽの会」発足（4.29）。資金集めの手段として、誕生日に1口1,000円の基金を寄せる「お誕生日基金」をはじめる。